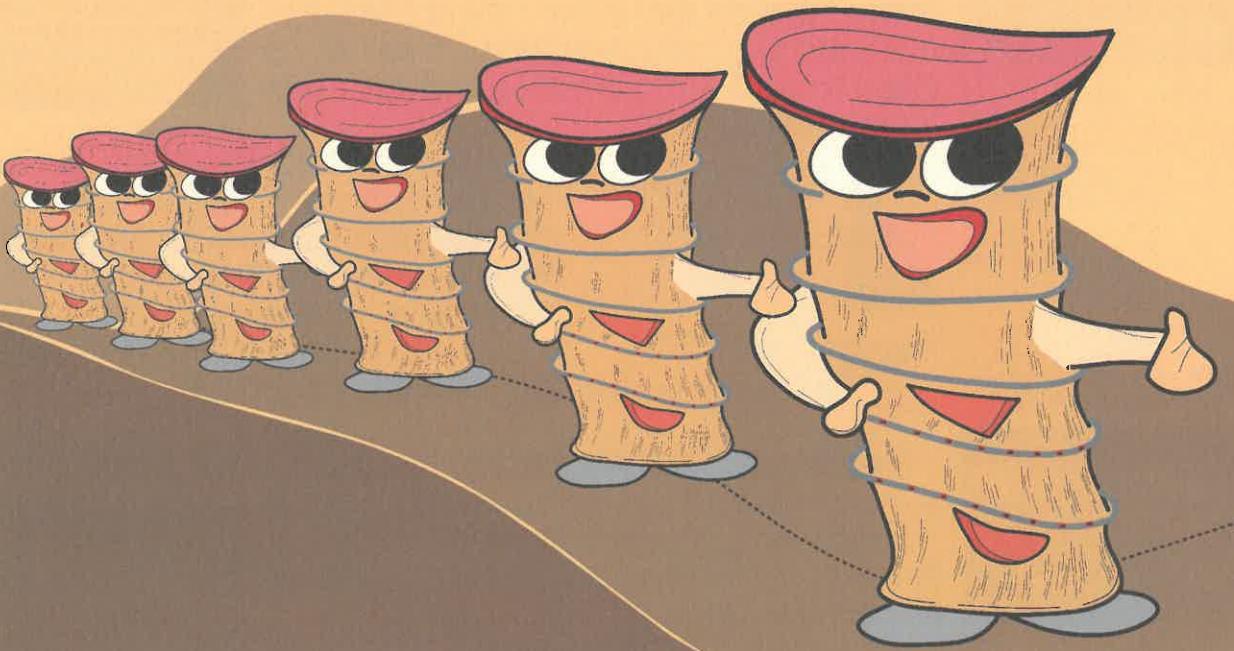


天理市埋蔵文化財センターだより Vol. 7

特集 『発掘の現場から -地下に眠る天理の昔々-』



れっつ！ハニワくん

◎冬の文化財展

『発掘の現場から

-地下に眠る天理の昔々-』

平成19年度発掘調査速報展

2008年12月6日(土)

～24日(水)

天理市文化センター

1階展示ホールにて

※月曜日は休館日

◎文化財講演会と展示解説

12月13日(土)午後2時から
かがやきプラザ3階会議室にて

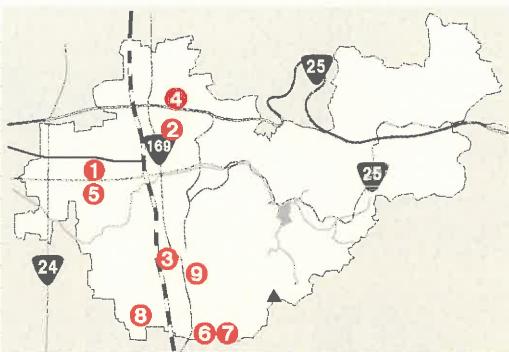
天理市教育委員会文化財課では、これまでに市内の遺跡における多くの発掘調査を実施しています。そのなかには開発行為に伴う発掘調査のみにかぎらず、遺跡の範囲確認や史跡整備に伴う学術目的の調査もありましたが、これらの調査成果については市民の皆さんの中に触れる機会がなく、その内容について知られることも少なかったと思います。

そのため、文化財課では平成18年度より夏と冬に年2回の文化財展示をおこない、市内の埋蔵文化財について理解を深めていただけるように努めています。

今回の「センターだより」では、平成19年度に市内の各地で実施した発掘調査の成果について簡単な紹介をしてゆくことにします。

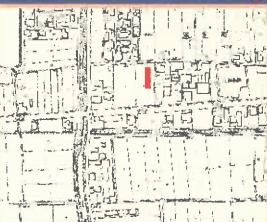
天理市教育委員会文化財課は市内遺跡を対象とした発掘調査を実施しています。今回の「センターだより」紙面では、平成19(2007)年度におこなった9件の発掘調査の成果を紹介いたします。発掘調査速報展示とあわせてご覧ください。

- ①前栽遺跡 ②別所ツルベ遺跡 ③⑨成願寺遺跡
④史跡 赤土山古墳 ⑤中ツ道遺跡
⑥⑦渋谷向山古墳隣接地 ⑧向山遺跡



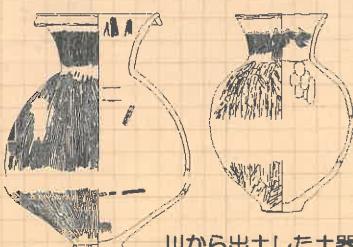
前栽遺跡 第6次

せんざいいせき



期間 平成19年4月5日～
平成19年5月2日

共同住宅建設に伴い前栽遺跡南半部で初めて発掘調査をおこないました。調査では東西方向に流れる川の跡が複数見つかり、その中から弥生時代中期末～後期の土器がまとまって出土しました。川から出土した土器はあまり摩滅しておらず、そう遠くないところで人々の暮らしが営まれていた可能性が高まりました。



川から出土した土器



川の掘削風景

これまでの前栽遺跡の調査では、縄文時代晩期～弥生時代前期の川や、弥生時代中期につくられた墓の跡が見つかっています。今回の調査で弥生時代中期末～後期の土器が多数出土したこと、弥生時代を通じて遺跡が存続したことが明らかになりました。前栽遺跡の西側にある平等坊・岩室遺跡との関連も注目されます。

別所ツルベ遺跡 第4次

べっしょつるべいせき



期間 平成19年12月3日～
平成19年12月21日

市道拡幅工事に伴って発掘調査をおこないました。別所ツルベ遺跡は平成6(1994)年におこなった第1次調査により、縄文時代の集落が営まれていた遺跡であることが明らかになっていますが、今回の調査では古墳時代後期の遺物が出土しました。

出土した遺物には円筒埴輪や蓋形埴輪が多く、もともとは近くにあった古墳に並べられていたようです。現在の山の辺小学校周辺には、古墳時代後期の古墳が集中して築かれていたことが知られており、今回の調査成果もそうした後期古墳群の存在を示すものと言えそうです。



調査区全景(西から)
後方奥に山の辺小学校

成願寺遺跡 第15次

じょうがんじいせき



期間 平成20年3月3日～
平成20年3月24日

成願寺遺跡の範囲確認と、古代の官道「上ツ道」に関する遺構の検出を目的として、上街道沿いの地点を発掘調査しました。上ツ道や成願寺遺跡に関する遺構は見つかりませんでしたが、古墳時代の川3条を検出し、その中から古墳時代前期～中期の土師器・須恵器・埴輪などが見つかりました。



調査区遠景(北西から)

川は人頭大の石の層で埋まっており、何度も土石流に見舞われたようです。また、調査区の北端と南端の川は、いずれも調査区外へのびる幅広いもので、もともとは起伏の大きい地形だったようです。

これらの川が埋まったあと、中世に開墾されて田畠となりました。その跡から、室町時代頃の「私鉄銭」という粗悪なお金が出土しています。

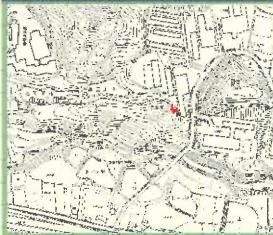


須恵器の出土状況

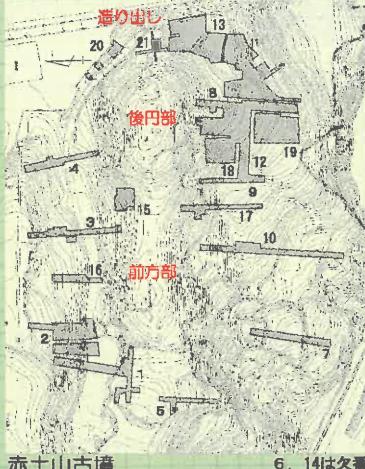
史跡 赤土山古墳 第9次

あかつちやまこふん

史跡赤土山古墳は天理市櫟本町に所在する全長106.5m以上の前方後円墳です。天理市教育委員会はこれまで8次にわたって、古墳の範囲を確認するための発掘調査を実施してきました。現在は史跡整備事業を進めていますが、工事の過程で後円部造り出しの遺構の状況を確認する必要が生じたため、新たに第9次調査を実施しました。



期間 平成19年12月19日～
平成20年1月18日

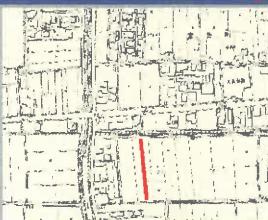


中ツ道遺跡

なかつみちいせき

宅地造成に伴い、古代の官道「中ツ道」に面する地区で発掘調査を行いました。

今回の調査は中ツ道関連の遺構とともに、小古墳の痕跡を検出する目的で行いましたが、時期不明の溝1条と中世の耕作痕跡を確認するにとどまりました。



期間 平成19年5月8日～
平成19年5月24日



向山遺跡 第2次

むかいやまいせき

大雨災害の復旧工事に伴う調査です。柳本大塚古墳の南東側に調査区を設けました。

調査では弥生時代後期～古墳時代前期の土器片がまとまって出土し、近隣にそのころの集落が存在した可能性が高りました。



期間 平成20年2月27日～
平成20年2月28日



調査区全景(南東から)

調査区は造り出し上の平坦面に設定しました。その結果、造り出し上面に埴輪列があることが確認されました。埴輪列は造り出し上面の形状に沿っており、高さ80cmほどの円筒埴輪が約3m間隔で並べられていたことがわかりました。赤土山古墳の埴輪配列を考える上で重要な資料です。



埴輪列と葺石



埴輪を掘り出す

渋谷向山古墳 隣接地

しぶたにむかいやまこふん
りんせつち



期間 平成20年2月25日～
平成20年2月28日

平成19年に発生した大雨災害の復旧工事に伴う調査です。渋谷向山古墳(景行陵)の南東側、南西側の2箇所に調査区を設けました。

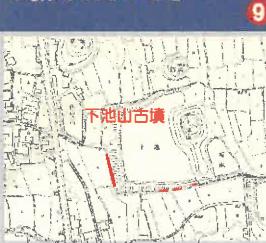
古墳時代の遺物は見つかりませんでしたが、江戸時代に造られた井堰などが残っていました。



調査風景

成願寺遺跡 第16次

じょうがんじいせき



期間 平成20年3月10日～
平成20年3月12日

大雨災害の復旧工事に伴う調査です。下池山古墳が所在する溜め池(下池)の堤防に沿って調査区を設けました。

下池は嘉永6(1853)年に改修されていますが、今回の調査でもその頃の構築物や遺物が見つかりました。



下池の堤防に立つ頌徳碑

出土品紹介

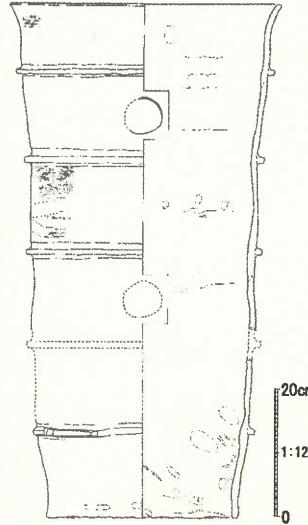
円筒埴輪

えんとうはにわ

3頁でご紹介した赤土山古墳第9次調査では、造り出し上に並べられた円筒埴輪列を確認することができました。右の写真に示した埴輪は、底部と上部が分離した状態で出土したものです。



埴輪は底部から25cmほどの高さまで土の中に埋められていきました。現地調査終了後にこの埴輪を持ち帰って検討したところ、本来は右図のように高さ80cm程度の大きさであったことが分かりました。



■円筒埴輪実測図
〔埴輪列L2〕

出動！発掘現場レポート!!

平成20年度上半期の調査

天理市教育委員会は平成20(2008)年度上半期に発掘調査を2件実施しました。ここではその成果をいち早くお知らせいたします。

■前栽遺跡第7次

2頁でご紹介した前栽遺跡第6次調査に続いて、そのすぐ西側で第7次調査を実施しました。この調査でも前回に引き続いて弥生時代の川の下流部分が見つかりました。さらに、下層からは弥生時代前期の土器も出土しました。川の流れの方向がある程度明らかになったことで、前栽遺跡南半部の様相を知る手がかりとなりました。

■嘉幡遺跡第2次

市営住宅の工事に伴い発掘調査を実施しました。調査地は嘉幡遺跡の西南部にあたり、弥生～古墳時代の川や氾濫原など、低地部の様子が明らかになりました。当時の集落は調査地の北側に位置したと考えられます。

室町時代には濠状の大溝が掘られており、屋敷地が作られていたことが分かりました。現在の嘉幡集落は調査区のすぐ東側に位置していますが、中世以降に集落の移動が生じたようです。

平成20年度の調査成果は
来年冬の文化財展で
展示するよ！



※「天理市埋蔵文化財センターだより」Vol.8 は、平成21年夏発行予定です。
お楽しみに！！



■平成20年度上半期の調査遺跡



■前栽遺跡第7次
調査風景



■嘉幡遺跡第2次
調査区遠景（西から）

発行◆天理市教育委員会 文化財課
天理市埋蔵文化財センター
〒632-0017 奈良県天理市田部町320
Tel・Fax 0743-65-5720
印刷◆富光コピー（株）